

令和4年度(2022年度)

地域づくり意見交換会

浅川中学校区・陵南中学校区

説明資料

目次

(1) 中学校区別ワークショップ全体の振り返り	1
(2) 地域づくりの必要性と未来像	6
(3) 地域づくり推進会議の取組紹介	20
(4) 各会議体の役割と移行プロセス	26

(1) 中学校区別ワークショップ全体の振り返り

ア 中学校区別ワークショップの概要

(ア) 目的 地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、地域課題の解決などのために協働していく「地域づくり」の気運醸成と、本市の最上位計画として策定する2040年を展望した「長期ビジョン」に地域の声を反映するため開催。

(イ) 期間 令和2年(2020年)12月6日～令和3年(2021年)7月18日

(ウ) 方法 37中学校区を13グループに分け、各グループ2回、合計26回実施。

(エ) 参加者 延べ参加者:653名(第1回:346名、第2回:307名)

参加団体等:町会自治会連合会、住民協議会、学校運営協議会、民生委員児童委員協議会、青少年対策地区委員会、福祉ボランティア団体、市民活動協議会、国際協会、障害者団体連絡協議会、商工会議所、青年会議所、環境市民会議会員、地球温暖化防止活動推進委員、小・中学校PTA、無作為抽出市民、公募市民

(オ) 内容 第1回:様々な世代が豊かに暮らせる「地域のありたい姿」について、テーマやキーワードを検討。

第2回:地域のありたい姿とその実現に向けて必要なことを整理。

検討された「地域のありたい姿」は65件、「その実現に向けて必要なこと」は1,075件。

イ 全体から見えた傾向

(ア) 地域のありたい姿

- ・「つながり」や「多世代」などがキーワードとして最も多く挙げられた。
- ・人口減少や高齢化が進むなか、地域内での連携や行政との更なる協働を図ることでより良い日常生活を送りたいとの声が多かった。

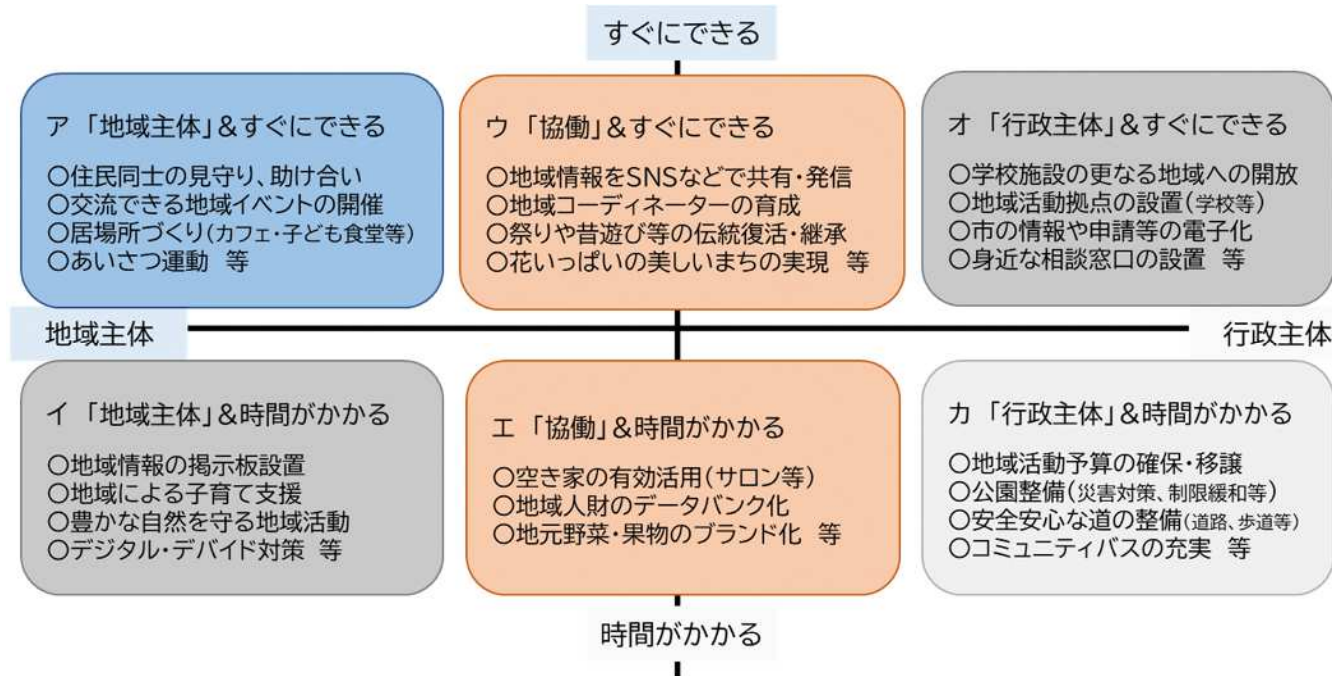
【地域のありたい姿】

- ・全世代が手をつなぐまち
- ・多世代の声が聞けて、それぞれがつながり、笑顔あふれる地域
- ・安心して多文化・多世代のつながりがあるまち
- ・いろいろな人がゆるやかにつながれるまち

(イ) ありたい姿の実現に向けて必要なこと

- ・「ありたい姿の実現に向けて必要なこと」の整理では、「地域主体 & すぐにできる」の分類が、他の分類を大きく上回った。【地域活動への意欲】
- ・参加者の多くが「地域活動」や「地域貢献」に対する意欲が高い一方で、そのきっかけや情報がないなどの課題も挙げられた。【行政による伴走支援、しくみづくりの必要性】

取組主体と時間による整理(主な内容)



ここで振り返れば、「中学校区別ワークショップの開催目的」は ...大きく分けて2つでした。

「地域づくり」の気運醸成

地域のみなさんの声を本市の最上位計画である「長期ビジョン」に反映するため

□長期ビジョンとは

本市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン2022」の基本計画部分（10か年）が令和4年度（2022年度）に計画期間を終えることから、新たな基本計画として令和22年（2040年）を展望した「長期ビジョン」とし、現行の基本構想とあわせて「はちおうじ未来デザイン2040」として策定します。

「みんなで目指す2040年の姿」

みんなで目標を共有して協働のまちづくりを進めていくため、中学校区別ワークショップ参加者を含め約20,000人の声をもとに11の八王子の未来の姿を定めました。

計画期間

令和5年度（2023年度）～令和12年度（2030年度） 8年間

ウ 長期ビジョンへの反映状況

(ア) 「地域のありたい姿」をもとに「みんなで目指す2040年の姿」を設定

長期ビジョンの「みんなで目指す2040年の姿」

人とひと、人と地域など多様なつながりを実感し、ほっとする住みよいまちをみんなでつづけている。		住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生100年時代を生き生きと暮らしている。	それぞれの個性を互いに認めあい、それぞれが望むフィールドで活躍している。
ワクワク感を持って、「やりたい！」に挑戦でき、笑顔で自分のみちを歩んでいる。	子どもの幸せをみんなでわかちあい、安心と喜びを持って子育てしている。		一人ひとりが高い防災意識を持ち、互いに支えあいながら、強さとしなやかさを持ったまちで安心して暮らしている。
	行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき、便利で快適な生活を送っている。	地域産業のイノベーションによって、より便利で豊かな生活を享受して暮らしている。	お気に入りの「ふるさと八王子」の魅力を発信し、世界が「Hachioji」の魅力を体感している。
地球規模で考え、地域で実践し、環境負荷ゼロのまちを目指しながら暮らしている。		自然と調和したまちで、みどりあふれる美しい空間を満喫しながら心豊かに暮らしている。	

全世代が手をつなぐまち

多文化・多世代のつながりあるまち

いろいろな人がゆるやかにつながれるまち

個性でつながる・支え合うまち

ゆるやかにつながるまち
- LGBT・外国人・障害者等 -

関わり合いの多様性から始まる地域

子どもからシニアまで楽しく生きがいを持って暮らせるまち

子どもとシニアが集える場所づくり

笑顔あふれる子どもから大人まで一緒に成長できるまち

自然と文化を通じた多世代交流のまち

豊かな自然の中でだれでも安心して暮らせるまち

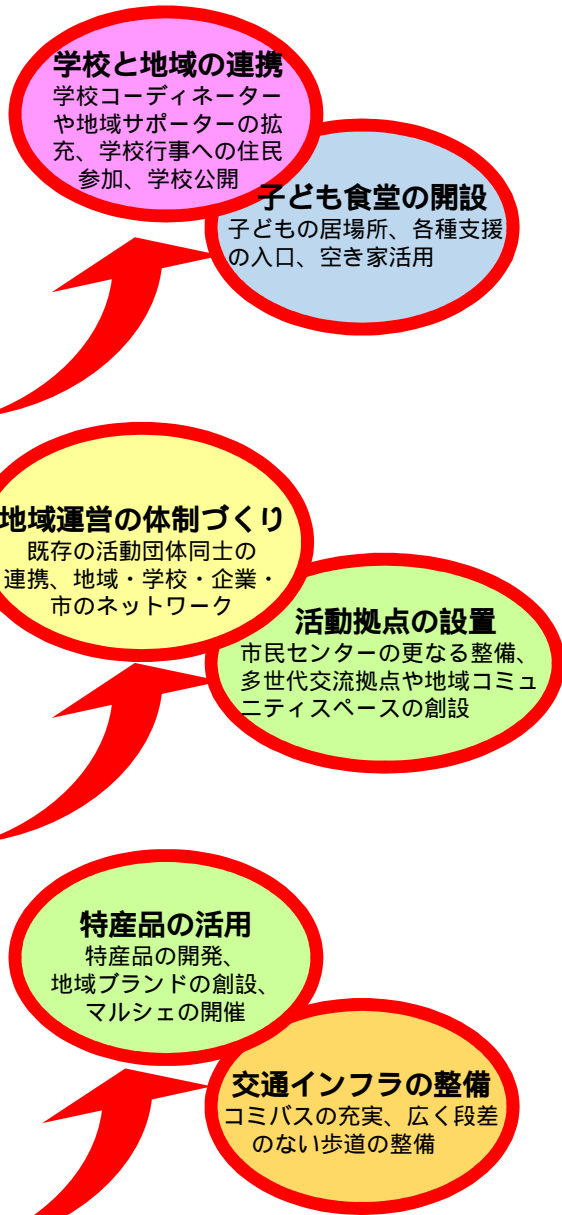
自然豊かな公園を核にしたコミュニティ



(イ)「重点テーマ及び取組方針」が「地域のありたい姿の実現のために必要なこと」を後押し！

「みんなで目指す2040年の姿」に向けて
長期ビジョンに「重点テーマ及び取組方針」を設定

未来の 主役 づくり	地域全体で子育てを支えるとともに、切れ目のない質の高い教育を通して、未来を担う子どもの「生きる力」を育みます。
	多様な学びの機会を創出し、誰もが働きやすく、社会参加できる環境を整えることで、一人ひとりの「自己実現力」を育みます。
	自然に健康でいられる環境と地域医療体制を整備するとともに、セルフケア能力を高める支援を通して、一人ひとりの健康を育みます。
未来への つながり づくり	多様かつ複合化した地域課題の解決に向け、市民力・地域力をもとにして、地域が主体的に支えあえる「地域づくり」を推進します。
	日本遺産をきっかけとして、桑都文化を磨き上げ、地域活動や地域の産業・経済の活性化を図るほか、豊富な資源を活用した地域主体の観光まちづくりを推進します。
	豊かな産業資源の優位性や学園都市としての知の集積を活かし、産学官民連携で革新的なイノベーションによる価値創造を目指します。
未来に 続く都市 づくり	自助・互助・共助の連携強化を図るとともに、自然や先端技術を活用し、災害の脅威から市民の命を守る強靱なまちづくりを推進します。
	にぎわいと活力を生み出すため、新産業分野の事業創出や既存産業への支援を行うほか、公共交通の充実とともにウォークラブルなまちづくりを推進します。
	自然環境と都市機能が調和した都市の実現に向け、再生可能エネルギーの導入推進・普及など持続力を生み出す取組を推進します。



(2) 地域づくりの必要性と未来像

ア 地域づくりの必要性

(取組の背景)

地域を取り巻く環境の変化

- 人口減少・少子高齢化の進行による担い手不足、地域活力の低下
- 高齢者世帯や単身世帯などの増加
- つながりに対する考え方の多様化による地域コミュニティの希薄化

社会環境の変化

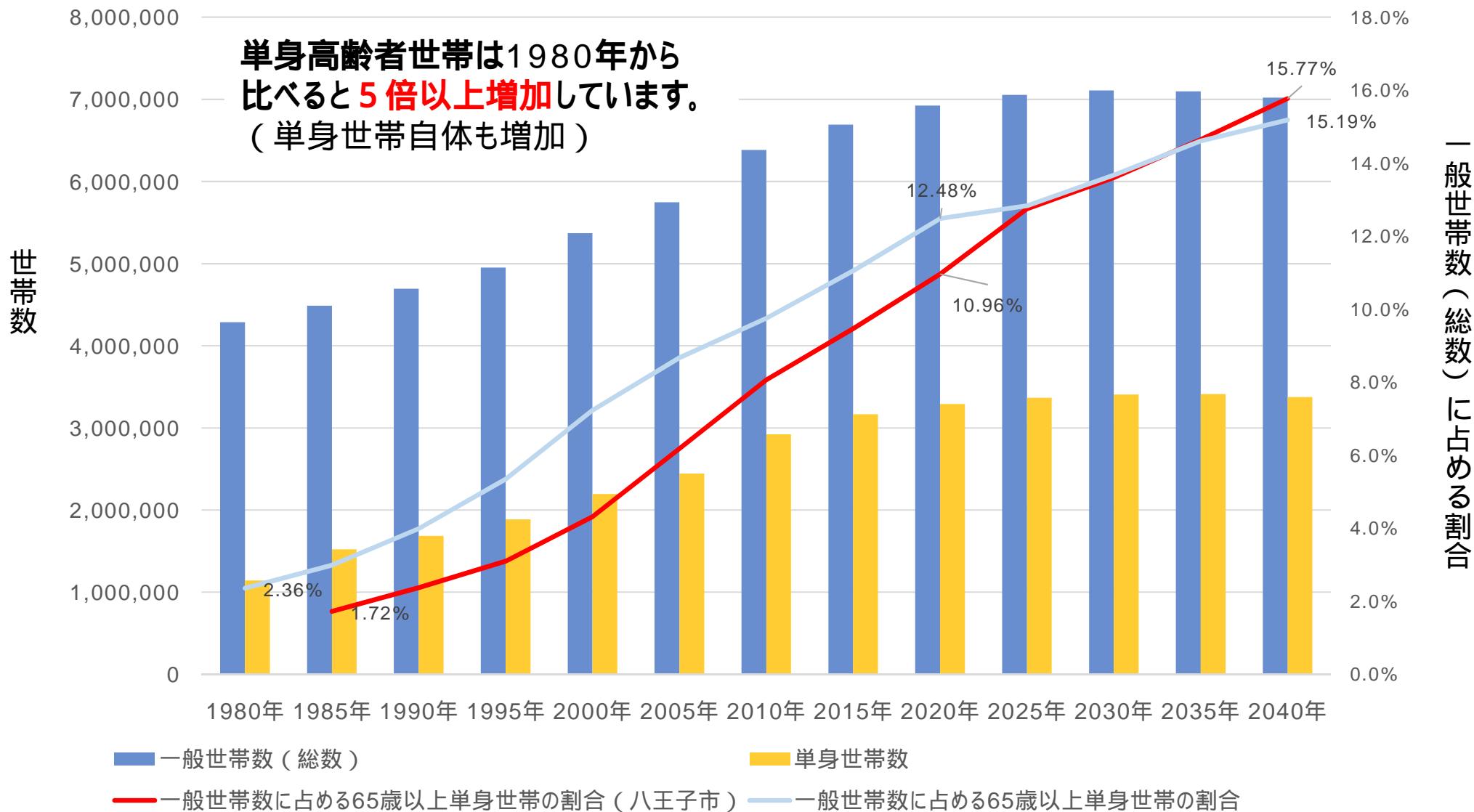
- ライフスタイルや家族形態の変化による価値観の多様化
- 感染症対策への意識の高まりやデジタル・トランスフォーメーション(DX)の進展に伴う「新しい生活様式」への転換
- 自然災害の頻発化・激甚化などによる環境問題への意識の高まり

新たに生じている社会的課題

- 子どもの貧困、老老介護、児童虐待、教育格差、ダブルケア、ヤングケアラーなど

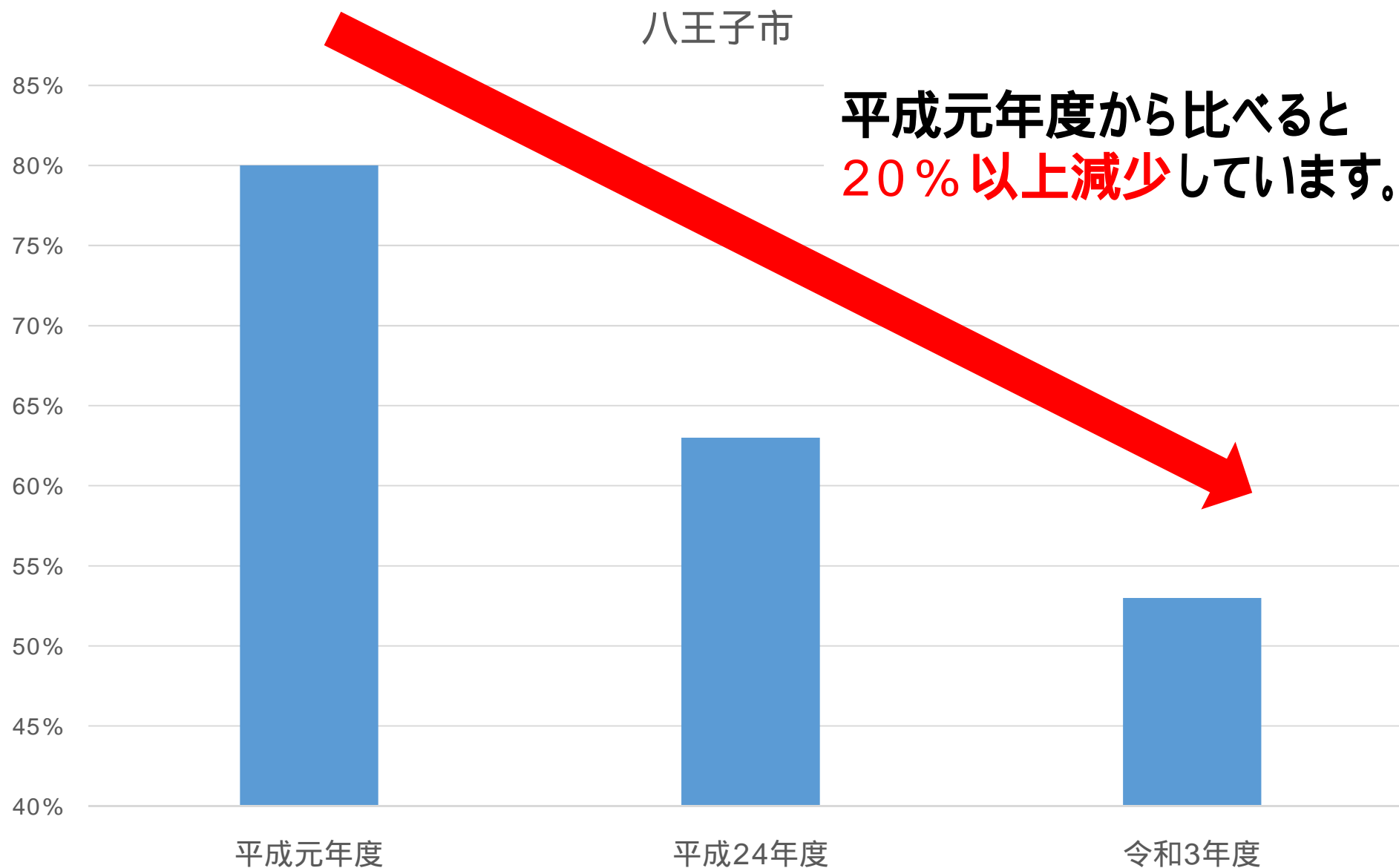
参考資料 (高齢者・単身世帯の増加)

世帯数の推移・推計 (東京都)



(出典: 「国勢調査」及び「東京都世帯数の予測」をもとに未来デザイン室作成)

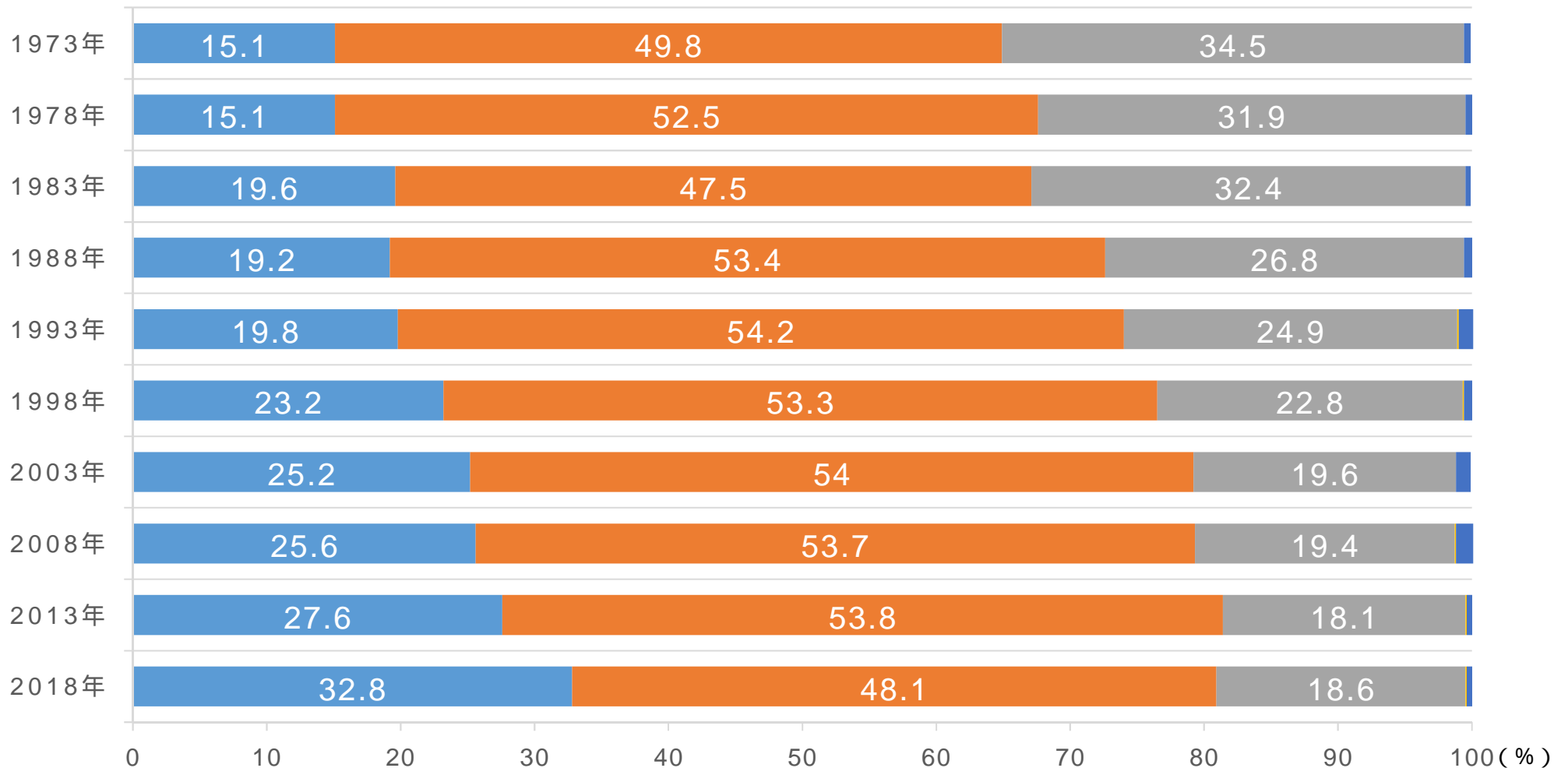
参考資料（町会・自治会加入率）



（出典：所管課データをもとに未来デザイン室作成）

参考資料 (隣近所との望ましい付き合い方)

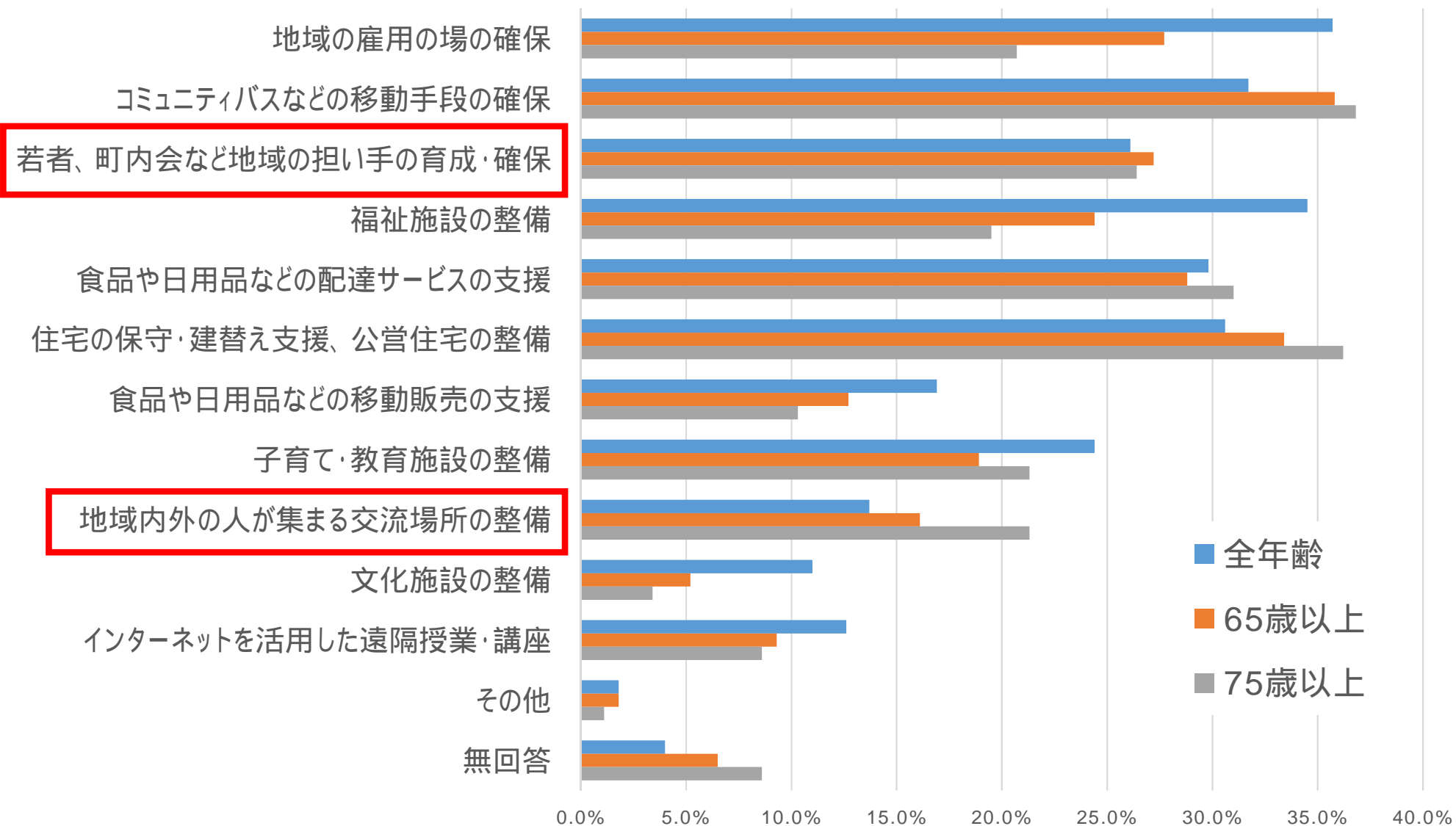
- 会ったときに挨拶する程度
- あまり堅苦しくなく話し合える
- なにかにつけ相談したり、助け合える
- その他
- わからない・無回答



(出典：NHK放送文化研究所「日本人の意識」調査をもとに未来デザイン室作成)

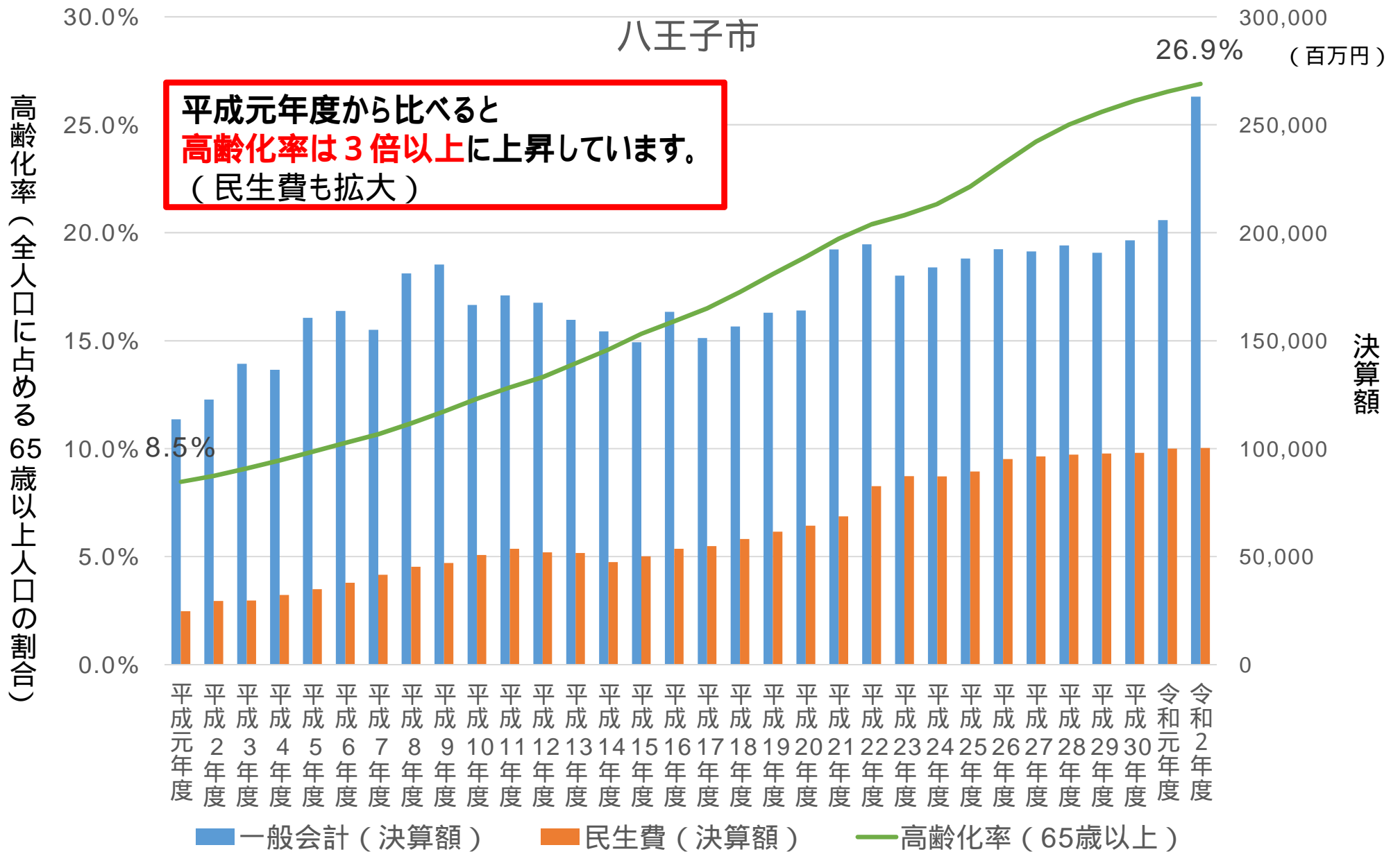
参考資料 (行政に求められている施策)

地域における生活環境について行政が力を入れるべき施策



(出典：内閣府 令和2年度 「地域社会の暮らしに関する世論調査」をもとに未来デザイン室作成)

参考資料 (高齡化率と民生費)



解決困難な課題が顕在化

- 地域のなかで孤立を深め、不安を感じる住民の増加
- 地域や住民のニーズが複雑化・多様化
- 地域や行政を安定的かつ持続的に維持・運営していくことが困難に

今こそ、地域と行政を変革する

地域づくりを進めていく必要性

があります！

地域づくりでは、

地域と行政、2つの視点からの変革をめざして
「地域づくりの未来像」を定め、その実現に向けて
地域と行政が協力して取り組んでいきます。

< 変革の視点 >

地域の姿(役割)

- 身近なところで安心できる、ゆるやかなつながりづくり
- 課題解決に向けた自立的・主体的な取組
- 持続可能な地域社会に向けたしくみづくり

行政の責任

- 地域のつながりづくり支援
- 各地域の実情に応じた施策・事業の展開
- 安定的で持続可能な行財政運営

イ 地域づくりの未来像

地域づくりの未来像(地域)

1. 多様なつながりをもとに安心して暮らせる地域社会

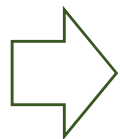
日常生活での顔の見える関係性のなかでの支えあい、担いあいを通して、誰もがずっと安心して住み続けられる地域をめざします。

2. 地域の自立性・主体性を発揮

従来の制度の縦割りや分野の垣根を超えて、地域の実情やニーズを捉えた柔軟な課題解決を実現していきます。

3. 将来にわたり暮らしを支える「新しい地域のつながり」

デジタル技術も活用しながら多くのステークホルダーとの連携を深め、地域の潜在的なポテンシャルを掘り起こしながら、持続可能な地域社会をつくっていきます。



中学校区単位に設置を進めている
地域づくり推進会議を母体実践していきます

地域づくり推進会議とはどんなもの？

地域の未来像の実現に向けて、地域の幅広い分野・世代の活動団体や住民がともに取組を行っていくための「**地域のプラットフォーム**」となるものです。

- 誰でも自由に参加できて、気軽につながりを持てる場になる
- 地域のなかで孤立を深め、不安を感じる住民を地域で支援



地域の未来像1

- 地域の課題解決に向けた取組を話し合い、合意形成を図る
- 行政の地域単位での施策・事業の展開に合わせた地域独自の取組



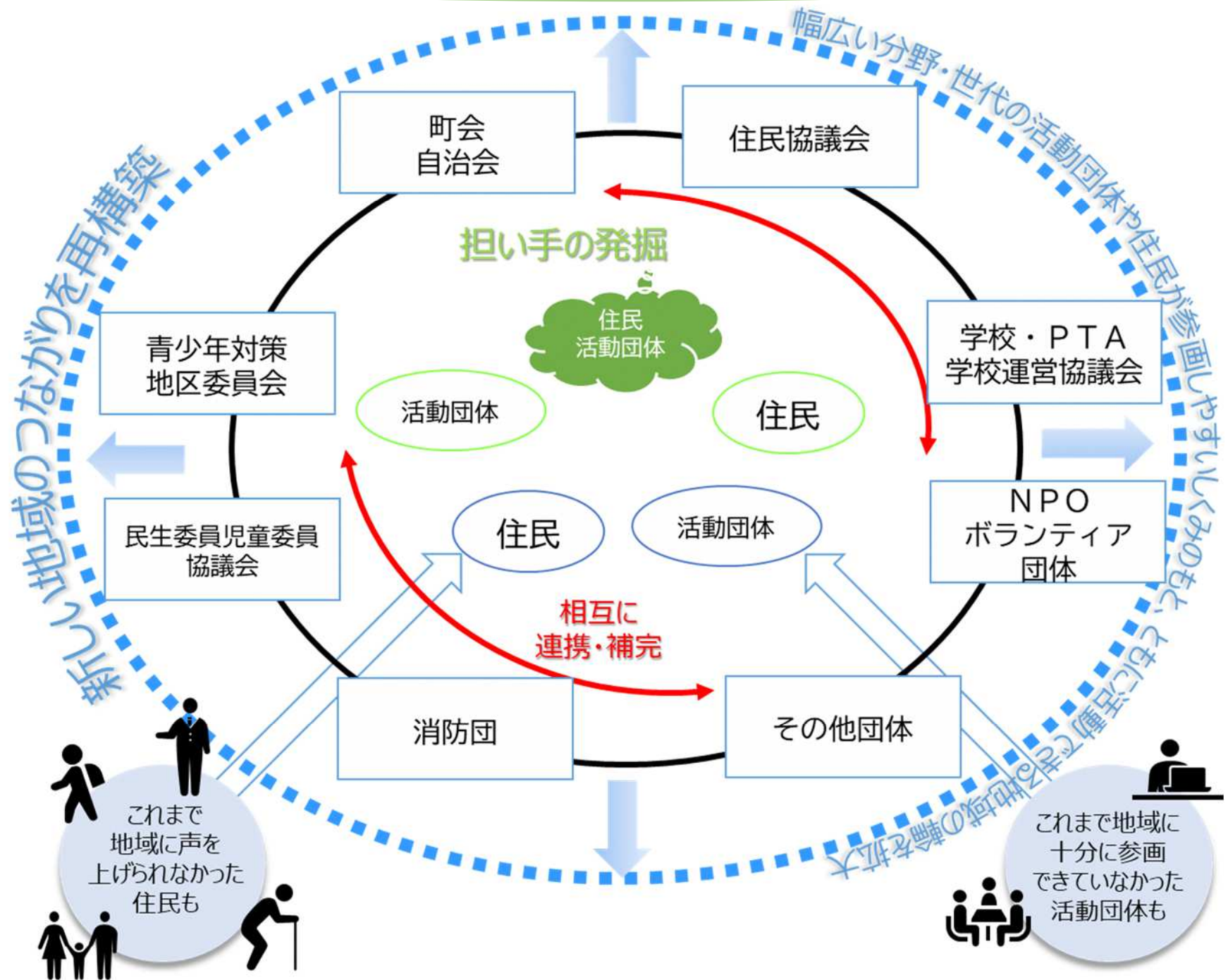
地域の未来像2

- 地域と行政との役割分担による、新しい公共サービス「地域公共サービス」の実現
- 「新しい地域のつながり」の再構築により持続可能な地域社会へ



地域の未来像3

< 地域づくり推進会議を母体とする地域づくりの未来像（イメージ） >



地域づくりの未来像(行政)

1. 地域に対する支援体制の確立

地域のことを地域と一緒に考えるしくみを構築していきます。
また、安心感の持てるつながりづくりを支援し、居場所や活動拠点の整備を進めます。

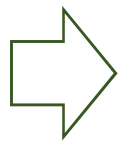
2. 圏域や中学校区単位での多様な施策・事業の展開

多様化・複雑化する地域課題に柔軟に対応するために、地域単位での施策・事業の展開を図っていきます。

(ただし、全市規模で実施することが効果的・効率的である施策・事業については、これまでどおり行政で責任をもって、一元的・画一的なサービス展開を行います。)

3. 役割とニーズを踏まえた「地域公共サービス」の実施

地域が担うことによってこれまで以上に効果的・効率的に実施できる事業や取組について模索しながら、地域と行政との役割分担によってニーズに合った「地域公共サービス」の展開、充実を図ります。



市役所(行政)のあり方や体制を見直しながら、
地域にとっての未来像の実現を後押ししていきます。

ウ 当面の取組

地域づくりの未来像の実現に向けて、八王子市では、

地域づくり推進会議の設置を進め、役割・機能の充実

に向けた取組を進めていきます。



その中で、地域の皆様のご協力をいただきながら、次のようなことについて検証を重ね、充実した制度の構築をめざしていきます。

推進会議の体制

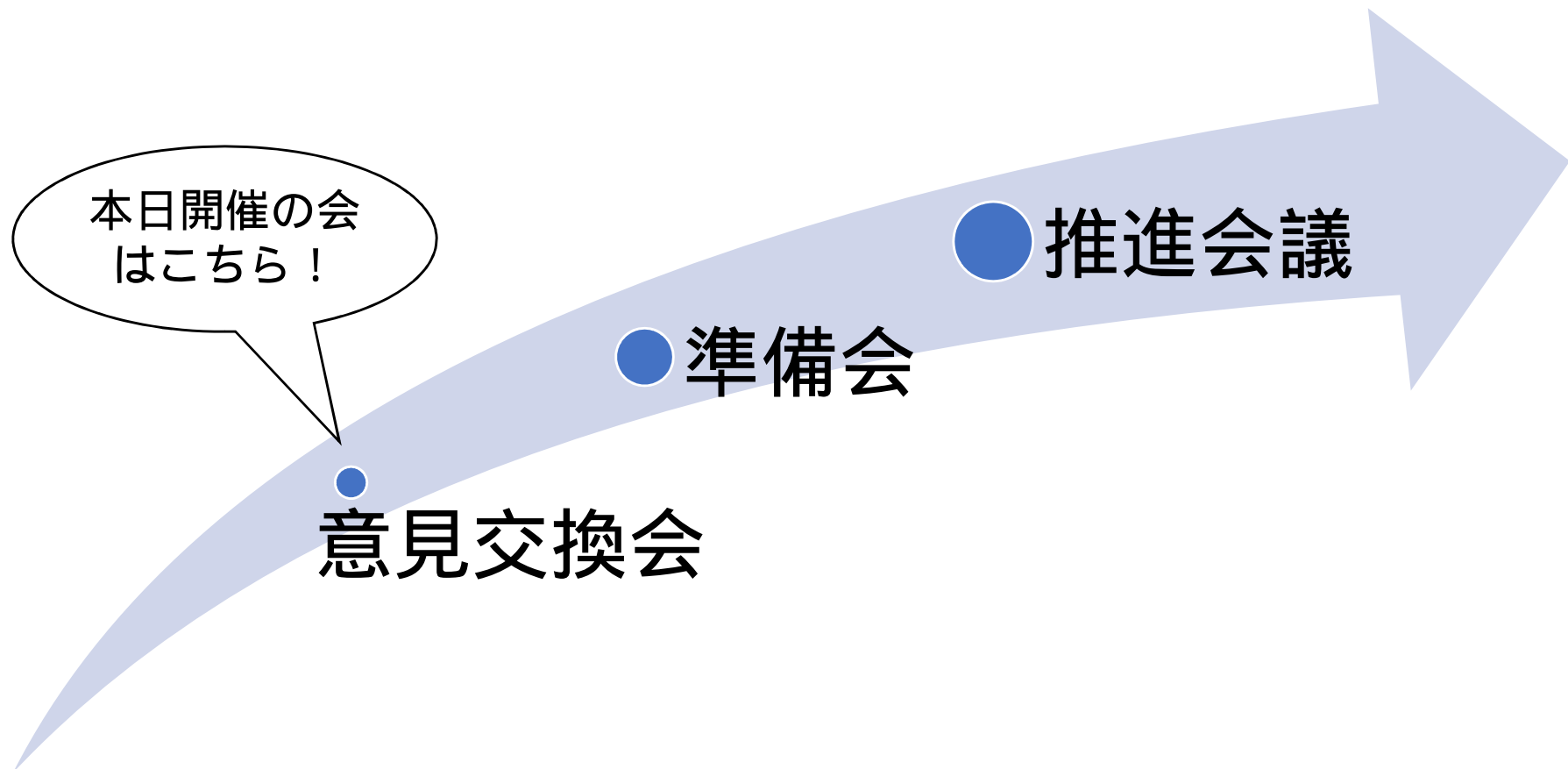
活動の財源

行政からの支援

今後、地域づくり推進会議の設置を進める中学校区では、

次のようなステップを踏みながら、地域づくり推進会議への移行を目指します。

地域づくり推進会議への移行に向けて、継続的に支援していきます。



(3) 地域づくり推進会議の取組紹介

ア 推進会議の進め方

令和3年度は、6月にモデル地区として長房・川口中学校区、12月にみなみ野・南大沢中学校区に推進会議を設置しました。

推進会議は、地域主体で地域の魅力発信や課題解決を図っていくためのプラットフォームとしていくため、以下のステップで進めていきます。

ステップ1

- ・地域情報の共有
- ・議論をしやすい関係づくり

ステップ2

- ・地域のありたい姿とそれに向けて必要な取組を設定
- ・地域で主体的に会議運営するための検討

ステップ3

- ・取組を通じて住民や団体同士が連携
- ・既存の取組の充実
- ・新たな取組の開始

地域カルテ作成



地域別づくり推進計画策定
推進会議の運営体制検討



計画に基づく
取組実施

イ 地域カルテ

地域の歴史や文化、活動団体、公共施設等の情報をまとめた地域の参考書となるものです。住民おすすめ情報も掲載しており、令和3年度に推進会議を設置したモデル地区(長房・川口中学校区)、みなみ野・南大沢中学校区では、地域色豊かな地域カルテが出来上がりました。

おすすめ情報のページはこんな感じ!!

長房新栄商店街とは?
長房新栄商店街は、長房団地造成とともに1960年代から長房の中心にある商店街です。当時は、長房住民で大変賑わい、現在でもその昭和な雰囲気漂うレトロな商店街で複数のお店が営業しています。

ラーメン **5 はる太郎**
Twitter: @harutaroramen



元洋食屋のシェフが経営する創業11年のラーメン屋。「魚介系醤油だれつけ麺」をはじめ、高級食材を使った「うにバターラーメン」がこだわりの逸品。麺は真空脱泡麺という高級麺で、つけ麺にはフレンチ料理のソースを使用し、コク深い味を作っています。常連さんも多く、お客さんは多世代に渡ります。例度も通いくなるお店です。

- 営業時間: 11時~18時
- 定休日: 金曜日
- 住所: 長房町375-8
- 駐車場: 3台

ケーキ **6 お菓子の工房 ひろ**
☎ 042-662-2845



創業24年、手作りケーキと焼き菓子を販売しているケーキ屋。おいしく安い店主のこだわりです。
八王子手土産ナンバーワンランプリ(T-1)で八王子市長特別賞を受賞している長房きっての有名店。炭山や横浜からもお客さんが来ます。

- 営業時間: 9時半~20時
- 定休日: 月曜日
- 住所: 長房町454-3

カフェ **7 GUARDA 楽**
☎ 090-9300-5929



創業17年の穴場カフェ。木の温もりで落ち着く店内で遠くから家族が出て来てくれます。お店の裏で自家栽培した野菜をふんだんに使用した料理を提供しています。おすすめはさっぱり頂くクリームソースです。色んな食材で取り上げられている人気店です。

- 営業時間: 11時半~15時 / 17時半~22時(完全予約制)
- 定休日: 火・水曜日
- 住所: 元八王子町2-827-6
- 駐車場: 4~6台

チベット料理 **8 Taste of Tibet**
☎ 090-7834-3775



「料理を通して、幸せを感じて欲しい」と令和3年6月にオープンした市内唯一のチベット料理屋。1番人気はチベット蒸し餃子の「モモ」。味付けやスパイスにもこだわりがあり、他では味わえない逸品です。チベットのグッズも売っています。地域に根差したお店になりたいとご家庭で経営されている温かいお店です。日曜のみ営業。

- 営業時間: 11時~17時
- 定休日: 月・土曜日
- 住所: 長房町551-5

みなみおさわ 南大沢ってこんなまち
本当に住みやすい街大賞 シニア編 第2位 (2021年)



まちのシンボル
東京都立大学
南大沢八幡神社
三井アウトレットパーク 多摩南大沢

便利な駅前エリア
南大沢東緑地
南大沢西緑地
中郷公園
溜池公園
大平公園
柏木公園
清水入緑地

駅から少し歩けば 自然豊かなエリア
小山内裏公園
尾根緑道(仮車道) 全長8km

施設・サービス
遊歩道(歩行者専用道路)
ジョギング・ウォーキング オススメコース
サンクチュアリ(鳥獣保護区)
車椅子利用者等 優先トイレ
オスメイト対応トイレ
カーシェアリング(タイムズ カーシェア)
赤ちゃん・ふらっと

その他のポイント
ゆーほどうで つながったまち
ゆーほどうで 東イスも ベビーカーも 中心
ゆーほどうで 赤石公園
ゆーほどうで 尾根緑道
ゆーほどうで 溜池公園
ゆーほどうで 大平公園
ゆーほどうで 柏木公園
ゆーほどうで 清水入緑地

ウ 地域づくり推進計画

地域のありたい姿を「将来ビジョン」として掲げ、その将来ビジョンの実現に向けた具体的な取組をアクションプランとしてまとめた**地域の行動計画**となります。令和3年度はモデル地区である長房・川口中学校区で策定しました。

地域づくり推進計画のイメージ

将来ビジョンを決定！

地域カルテの作成時に出た、地域の魅力や課題を整理！

・4 地域の将来ビジョン¹⁾

推進会議などでありたい姿について検討を行い、以下の地域の将来ビジョン(目標)を掲げました。

川口中学校区の将来ビジョン²⁾

住みたくなる、住み続けられるまち川口。

～自然と共生し、大人から子どもまでのつながりを大切に～³⁾

◇将来ビジョンに込めた思い

「地域のあらゆる世代」、「地域の住みやすさ」、「自然の豊かさ」の3つのキーワードをもとに、地域に住む子どもから大人までの人々が、つながりや結びつきを大切にしていきたいという思いから将来ビジョンを決定しました。

魅力と課題⁴⁾

【魅力】⁵⁾

(ア) 地域環境に関すること

- ・ 上川町、川口町、美山町、犬目町は地域の居住環境が違う。
- ・ 川口町は戸建てが増え、新住民が増加している。
- ・ 上川町は地域内での結束力が強い印象がある。
- ・ 美山町は戸沢峠を越えた地域で、美山町独自の文化がある。

(イ) 地域活動に関すること

- ・ 住民活動が盛んである。
- ・ NPO 法人やボランティア団体の活動が多い。

(ウ) 自然・四季に関すること

- ・ 動植物、山や川など豊かな自然に親しむことができる。
- ・ 四季の変化を感じることができる。

(エ) 良好な暮らしに関すること

- ・ 静かでのびのび暮らすことができる。
- ・ 地域住民の交流があり、地域の人に見守られながら生活できる。

・5 アクションプラン⁶⁾

地域の将来ビジョンの実現に向けて、地域主体、また地域と行政が協働した課題解決に取り組んでいくためのアクションプランを定めました。

アクションプランは、令和4年度(2022年度)から、地域主体で取り組んでものを優先的アクションプランとして取組概要などを決定しています。

そのほかのアクションプランについては、今後取り組んでいく候補として、令和年度(2022年度)に具体的な検討を進めていきます。

・(1) アクションプラン一覧⁷⁾

【優先的アクションプラン】

- プラットフォームづくり
～地域の情報や担い手が集まる場づくり～ ◎課題(イ)、課題(オ)。
- ① コミュニティカレンダーづくり。
- ② マルシェの開催

◇ 優先的アクションプランの実施理由

季節のイベントや防犯パトロールなどの活動が盛んなこの地域は、団体活動が重複し、マンパワーが分散している傾向にあります。そこで、地域情報を集約した「コミュニティカレンダー」の作成や、多世代の方が顔を合わせるきっかけとなる「マルシェ」を開催し、活動の効率化と広がりを生み出していきます。

【アクションプラン】⁸⁾

- 活動拠点の整備 ◎課題(イ)、(エ)。
- ・ 地域資源(観光・自然・野菜など)を発信する
- ・ 場所の整備
- 地域情報の発信力の強化 ◎課題(オ)、(カ)。
- ・ 地域での幅広い情報共有、SNS を活用するための環境整備
- ・ 空き家、遊休農地を再利用しやすい環境づくり
- 地域コミュニティの活性化 ◎課題(イ)、(カ)。
- ・ 地域での見守り隊を結成
- 行政との連携強化 ◎課題(エ)、(オ)。
- ・ 担当所管との定期的な意見交換(双方向の情報共有の強化)
- ・ 計画を実施するための組織づくり
- 交通利便性の向上 ◎課題(ア)。
- ・ 交通(バス、タクシーなど)の利便性の向上
- 地域の担い手の育成 ◎課題(ウ)。
- ・ 地域人材が将来的に戻ってきたくするための地域の魅力向上
- ・ 計画を実現するリーダーや地域情報のインフルエンサーの育成

将来ビジョンを実現するために必要な取組を決定！

エ 主体的な取組の実践

モデル地区では、令和4年度から地域づくり推進計画を基に、アクションプランで掲げた具体的な取組を実践しています。

【長房中学校区】

将来ビジョン

多文化・多世代がつながり みんなが安心して
楽しく暮らすまち 長房
～みんなで描く幸福度の高いまちづくり～

アクションプラン

地域情報の発信力の強化

地域施設（スーパー・公共施設等）
で周知
SNSを活用
地域イベントで発信

<アクションプラン設定の背景>
各団体が情報を発信しているものの、世代によって情報の取得方法が異なり、情報量の差がある。

【川口中学校区】

将来ビジョン

住みたくなる、住み続けられるまち川口
～自然と共生し、大人から子どもまでの
つながりを大切に～

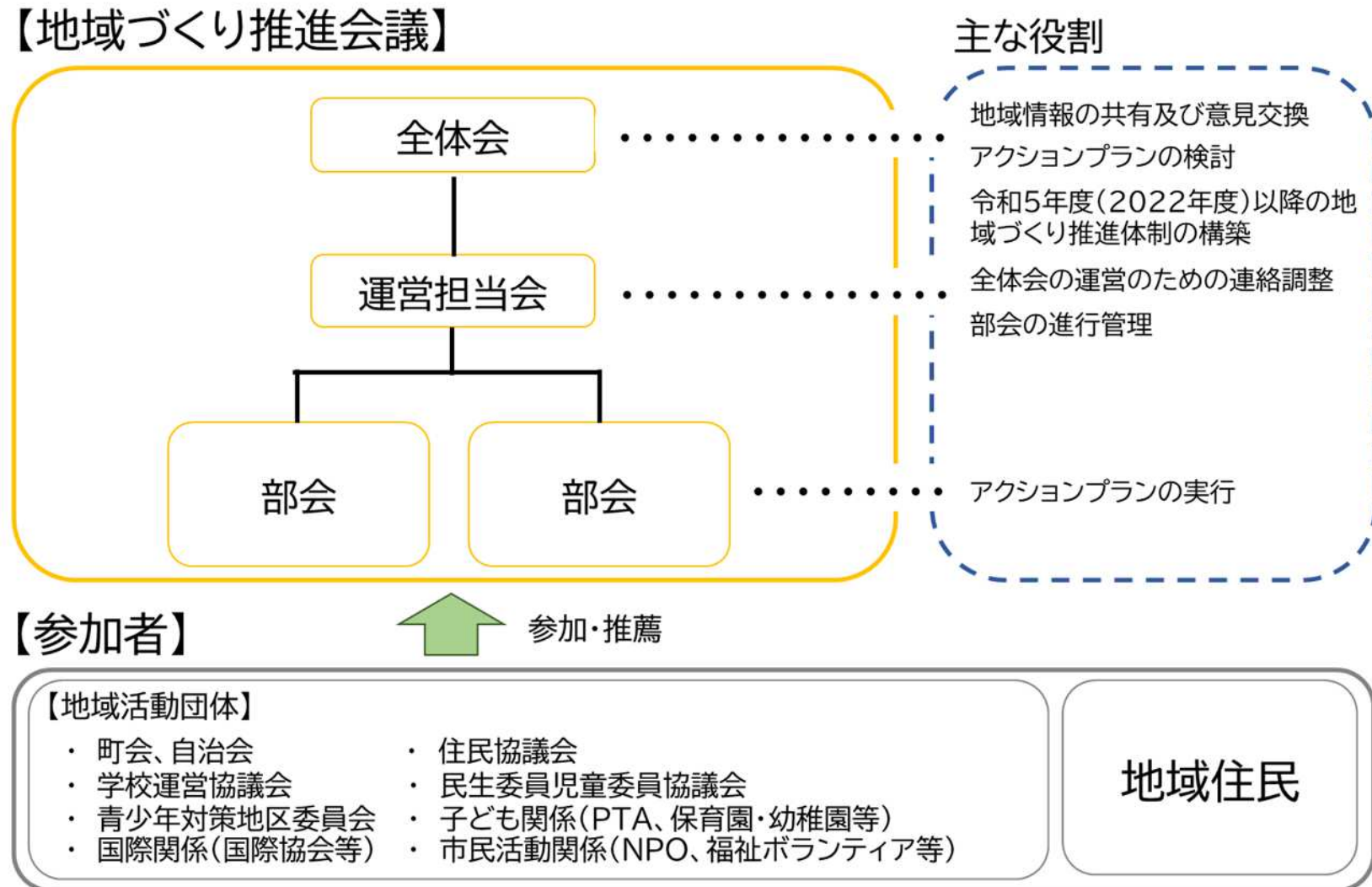
アクションプラン

プラットフォームづくり～地域の情報や
担い手が集まる場づくり～
各団体の行事を網羅した
コミュニティカレンダーの作成
みんながつながるきっかけとして
マルシェを開催

<アクションプラン設定の背景>
季節のイベントや防犯パトロールなど団体活動が重複し、マンパワーが分散している。

オ 推進会議の運営体制

モデル地区では、多世代・多分野にわたる地域の活動団体や住民が参画し、自分たちでやりたいことを実現していくためのプラットフォームとなることを目指し、試行的に以下の体制で会議を運営しています。



力 推進会議参加者の声 (広報はちおうじ令和4年3月15日号から)

長房

多世代が参加しやすい地域をめざして

現役時代はあまり携わることができなかった地域活動。定年を迎えた今は、町会活動を通じて地域と関わりを持っています。地域づくり推進会議で話し合うのは、地域の現状や未来の姿について。長房の歴史や、若い人たちがどうやって地域の情報を手に入れているかなど、これまで私が知らなかったことも教えてもらっています。

長房中学校区には、幅広い年代の方が暮らしており、情報の取得手段もさまざまです。こうした現状から、これまでとは

違ったアプローチで情報発信を行い、地域のことをよりたくさんの人に知ってもらおうという意見が出ました。

まちの未来をつくっていくため、より多くの人に地域のことを知ってもらい、地域の中に入り込める人を増やしていきたいです。



すずき ひろし
鈴木 比呂志 さん

川口

地域の力を引き出す話し合いの場

これまでPTAの活動を通じて地域と関わってきました。季節のイベントや防犯パトロールなど、住民活動が盛んな川口中学校区。会議では、「多くの団体が活動しているがゆえに行事が重複し、せっかくの力が分散してしまっているのではないか？」といった課題も見えてきました。

そこで私たちが考えたのが、地域の情報を集約した「コミュニティカレンダー」の作成や、さまざまな年代の方が顔を合わせるきっかけとなる「川口マルシェ」の開催。こうした取組が実現し、まちの皆さんの活動につながりと広がりが生まれたいと思います。

川口中学校区の地域づくりは、今まで地域のみんながやってきたことを整理し、自分たちが持っている力を発揮するための方策を話し合うことから始めています。地域の未来のために、これからもみんなで丸となって取組を進めていきたいです。



ないとう かよこ
内藤 佳代子 さん

みなみ野・南大沢中学校区の参加者からは、推進会議を通じて他団体の人とつながりが出来、推進会議以外の場でも連携することができたとの声もいただいております。

(4) 各会議体の役割と移行プロセス

各中学校区に推進会議の設置については、地域の意向を大切にしながら、地域の実情にあわせて段階的に進めます。

意見交換会

- 地域の多様な活動団体や住民が地域活動における課題や共有したいことの意見交換を行う。
- 他地区の取組を参考に推進会議等への理解を深め、地域づくりの気運を醸成する。
- 地域づくりの未来像や推進会議設置のプロセスを共有し、推進会議設置に関する意向をまとめる。

準備会

- 推進会議の設置に向けたメンバーが集まり、地域の魅力や課題への理解を深めるとともに、参加者間の関係性を構築する。
- 推進会議の運営体制や必要な役割を検討し、設置準備を行う。
準備会設置後の翌々年度までに推進会議に移行(予定)。

推進会議